

★熱中症搬送 4万3000人 7月過去2番目 死者数62人 熱中症3段階（軽・中・重度）の症状と対応

総務省は熱中症で7月に救急搬送された人は、全国で4万3195人と発表。昨年7月の1.2倍。厳しい暑さに続き7月としては、データーのある2008年以降で過去2番目の多く、30都道府県で62人の死亡が確認された。消防庁はエアコンの適切な使用や小まめな水分摂取・帽子の着用を呼びかけています。

3週間以上の入院が必要な重症者は1110人、短期間入院が必要な中等度は1万4216人。年齢別では65歳以上の高齢者が2万5469人で過半数を占めた。乳幼児も249人搬送された。都道府県別では東京が4227人で最多、大坂3342人、愛知2950人と続く。兵庫は2158人であった。消防庁は8月12～18日の1週間の速報値も発表。7104人が搬送され、5人が死亡確認された。

熱中症による救急搬送は、梅雨の合間の突然気温が上昇した日や、湿度の高い蒸し暑い日が発生する6月頃から多くなります。具体的には、**気温が26℃～35℃、湿度が60～90%の範囲に入ると、救急搬送者が多くなるというデータ**があります。気温が26℃程度でも、湿度が高ければ熱中症になるリスクは高まります。

予防対策として、外出時には帽子や日傘で直射日光を避ける。こまめな水分・塩分補給が必要で**水分補給は1日1.2Lが目安**となります。室内では、昼夜問わず**室温28度を超える場合にはエアコン**を使用する。温度だけでなく湿度にも注意が必要で、**扇風機等で風通しの良い環境**も大切。特に調理時に火を使う場合には熱と共に蒸気が発生し、湿度が高くなるため**換気扇の使用**が望ましい。

熱中症の症状は3段階に分けられます。

【軽度】「めまいや立ちくらみ」などの症状。対処法は、まず涼しい場所への避難。衣服をゆるめたり、水分・塩分を補給。経口補水液やスポーツドリンク飲用が望ましい。

【中度】「頭痛や吐き気」などの症状が現れる。対処法としては、軽度と同じ対処をしつつ、全身に血液が回るようにするため、足を高くして涼しい場所で休む、そして病院で受診が望ましい。

【重度】「意識障害や高熱」などの症状。対処法は、体を冷やすために、首・脇の下・脚の付け根など血管が太い部分に氷や水を当てる。直ぐに救急車の要請が望ましい。

★ コメ品薄続く 昨年夏 猛暑で高温障害 インバウンド増加 地震警戒し 買いだめも拍車 需要逼迫

総務省は7月の全国消費者物価指数でコメ類が前年同月比17.2%上がり、20年ぶりの上昇率となったと報告。昨年夏の猛暑でコメに高温障害が発生し市場に出回る量が減ったことや、今年の新米が本格的に流通していないことから 需要が逼迫して価格が高騰しています。

昨年7月から今年6月の**インバウンドを含めた外食需要や コメを使用した食品**（せんべいやおにぎり等）の消費量も上昇。更にパンや麺類に比べて割安感があることでコメの需要の高まり、今年の春頃から需給が逼迫していました。そこに拍車をかけたのが、災害に備えるための「**買いだめ**」です。8月になって**南海トラフ地震の臨時情報**（巨大地震注意）が発出され、普段より多めにコメを買い備蓄した人も多かった。

農水省は、**収穫時期の早い地域から新米流通する9月中旬頃に品薄状況が徐々に解消する**と言うが、実際に事態沈静化は10月以降とみている。

元農水省農林水産政策研究所長は「今年も猛暑が続いており、安定した量が生産できない可能性がある」と指摘。「**気候危機の悪化が予想されるなか、猛暑に対応し得る生産体制を構築しつつ、国も需要供給に対する情報を的確に出していくことが重要**」と話す。

減反をしておき コメが足りんてか

「コメがない」と言われりゃ 余計欲し

令和6年 処 暑

(文責 MMY)